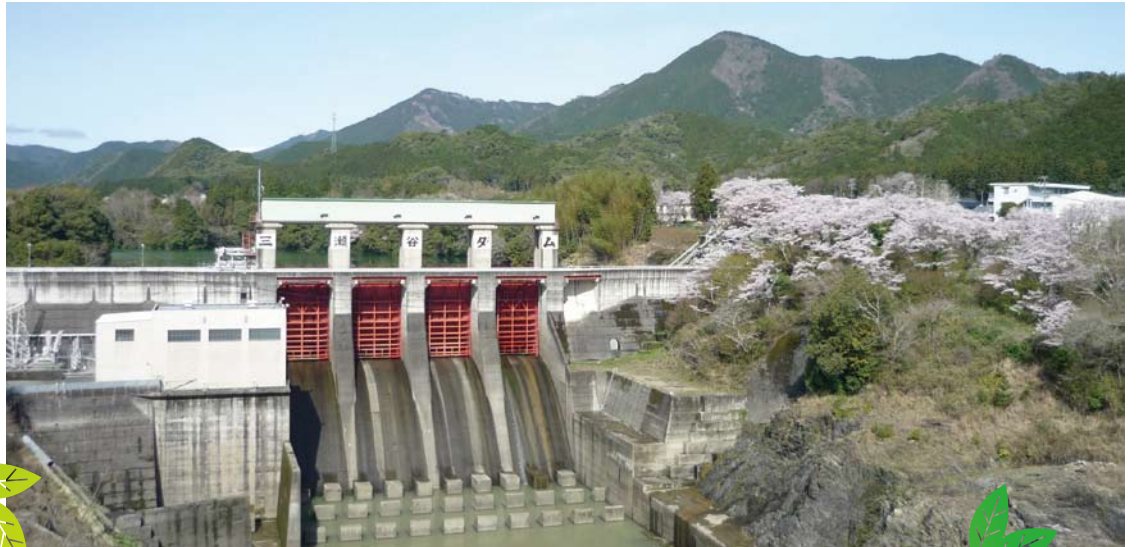


厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

三瀬谷ダムとダムからの眺め



contents

新任のご挨拶	2
健診のすすめ	4
緩和ケア内科の新設にあたって	5
薬剤部紹介	6
RST 活動報告	7
訪問型職場適応援助者研修課程を修了しました	7
おすすめ郷土料理	8

JA三重厚生連の基本理念

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。



#70
2016. May

新任のご挨拶

鈴鹿中央総合病院 事務部長

新貝 春紀



本年4月1日付で事務部長に就任致しました。

鈴鹿中央総合病院は、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、そして災害拠点病院に認定され、病院として三種の神器と云えるものを持ち合わせ、鈴鹿市の中核病院、県においても重要な位置づけの病院となっています。

また、職員及び其々の部門が、自分たちの行うべきことを認識し、取り組んでいることが本当によくわかり、意識の高さを日々感じています。

現代社会において、医療に対する目は厳しく、ストレスがかかる時代となつていますが、そうした中においても、病院で勤務する皆が、時には笑顔も

出て、次の日も頑張つて働こうと思える職場づくりに努めていきたいと思えます。自分には些細なことしかできないかも知れませんが、忘れることなく取り組みます。

「現状維持は退化と同じ」ということが云われますが、それは病院にとつても自分にも当てはまることだと思えます。常に一歩でも前進・変化することを中心掛けていきます。

最後に、当院の増改築計画・工事も迫ってきましたが、病院が機能を強化しつつ事業を順調に継続していくためには、計画を着実に達成していく必要があります。そのためには、職員全員が力を結集して取り組まなければ絶対に達成なんてできません。鈴鹿中央総合病院に勤務する皆さん、ご協力をお願いいたします。

そして、鈴鹿中央総合病院を取り巻くすべての皆様、ご支援お願いいたします。

菰野厚生病院 事務部長

稲垣 憲一



本年4月から事務部長に就任いたしました。菰野厚生病院には約9年ぶりの勤務となり、懐かしさと同時に、初めての事務部長職に戸惑いと不安を感じるばかりの日々ですが、小嶋院長をはじめ職員皆様のご協力の下で勤務させていただいております。

医療を取り巻く環境では、世界に類を見ない超高齢社会の出現に備え、国は地域医療構想を策定し、医療提供体制の再構築を進めております。今後、地域における医療環境は大きく変わっていくことから、病院の将来に向けた舵取りが非常に重要で、かつ難しくなっております。

このような状況の中、本院の強みで

あるケアミックス型病床機能と介護サービスに一層磨きを掛けるとともに、いなべ総合病院と連携を密にし、お互いの医療機能を補完することにより、今後も質の高い医療・介護サービスを提供し続け、10年、20年先も菰野町・北勢地域の皆様から愛され信頼される病院であるよう、微力ながら精一杯努めてまいります。

今後とも皆様のご指導をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

大台厚生病院 事務部長

大下 清



本年4月1日付けで事務部長に就任しました。大台厚生病院には10年半ぶりの勤務となります。

新任のご挨拶

病院は1年前に新築移転したばかりで、以前とは規模や機能、また地域からの期待も大きく伸展しており、着任したばかりで戸惑うばかりの毎日ではありますが、まずは目の前の課題を一つ一つ整理しながら、着実に職責を全うしたいと考えています。

医療・病院経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いていますが、病院の基本理念（全職員で心が通い合う医療を提供し、紀勢地域の皆様の健康と福祉に貢献します）にもありますように、紀勢地域の基幹病院として地域住民の皆様から更に期待・信頼される病院であり続けるよう、また職員が笑顔で働き甲斐のある病院であり続けるよう微力ながら誠心誠意努めさせていただきます。

今後とも皆様のご指導いただきますよう、よろしくお願いたします。



株式会社三厚連ウイズ 社長

伊藤 雅彦



本年4月1日付けで株式会社三厚連ウイズ代表取締役就任いたしました。

全くの新しい分野の仕事に戸惑い、責任の重さを感じる毎日でございます。

「株式会社三厚連ウイズ」は、三重県厚生農業協同組合連合会が障がい者雇用の促進と社会的貢献を果たすための子会社として設立し、障害者雇用促進法の規定に基づく認定を受けた特例子会社でございます。

本年4月に第4期の新入社員を受入れ、鈴鹿中央総合病院を本社拠点に、松阪中央総合病院、菰野厚生病院に営業所を拡大し、鈴鹿厚生病院は本社からの出張事業所として、ベッドメイキン

グや病棟、病室の美化事業等の業務を行っています。

社員が安心して働ける会社となり、厚生連の子会社としての使命を果たしていけるように、微力ではありますが誠意努めさせていただきます。

今後とも、皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。



いなべ総合病院 看護部長

小辻 俊通



本年4月1日付けでいなべ総合病院看護部長に就任いたしました小辻俊通です。この誌面をお借りし、自己紹介を兼ねてご挨拶申し上げます。

私は三重県厚生連看護専門学校（4年生）を卒業後、鈴鹿厚生病院、鈴鹿中

央総合病院、菰野厚生病院で勤務いたしました。職場経験は、新卒後1年間の精神科病棟勤務後、26年間の手術看護に関わらせて頂きました。菰野厚生病院では、副看護部長として外来部門と地域連携室責任者を担当させて頂きました。三重県厚生連で学ばせて頂いた経験を活かし、いなべ総合病院の職員の力をお借りして、質の高い看護と医療を地域住民の皆様届けたいと思います。

菰野厚生病院との連携をより向上することで、いなべ市、菰野町の北勢西部地域住民の方々が健康寿命を延ばし、病気の心配がなく幸せで充実した生活をおくれるように努めていく所存です。

また、当院は災害拠点病院、がん診療連携推進病院、基幹型臨床研修指定病院の指定を受けています。その機能が発揮できるよう看護部をまとめ頑張っていきたいと思っております。



健診のすすめ ～人間ドック受診者におけるがん発見状況について～

いなべ総合病院 健康管理センター

わが国の死亡原因は、昭和56年以降は「がん」による死亡が1位となり、2位心疾患、3位脳血管疾患となっています。また、がんが原因で死亡される方は毎年約30万人を超えています。がんの早期発見により治癒率も向上しますので、定期的ながん検診を受けることが重要です。今回、平成21年度から

平成26年度までに、当健診センターで人間ドックを実施した約4万7千件のうち、がんの発見数について調査を行いましたので紹介いたします。

部位別にみると、男性では胃癌が最も多く、次いで前立腺癌、肺癌、大腸癌、食道癌、腎癌の順でした。（図1-1）女性では、子宮癌・肺癌が同率で最も

く、次いで肺癌・胃癌、大腸癌、肝臓癌、腎癌の順となりました。（図1-2）

年齢別にみると、男性は60歳以上からがん発見数が急激に増加しており（表2-1）特に前立腺癌、胃癌の増加が著しい状況です。（図2-1）女性では、年齢別のがんの発見数に大きな差は認めませんでした（表2-2）、40歳未満は子宮癌（子宮頸癌）、50歳以上で肺癌、70歳以上で胃癌の発見数が多くなっています。（図2-2）

今回の結果から、男性は特に60歳以上からがん検診を積極的にうけることが望まれます。前立腺癌のすべてがPSA検査で異常を指摘されていたため、PSA検査も有効で、女性では若年層への子宮頸癌検診の推進、40代・50代からは定期的な肺癌検診（マンモグラフィ等）が有効です。また、大腸癌では便検査陽性者の大腸内視鏡検査が早期発見につながります。

当健診センターの受診者数は年々増加傾向にあり、これは健診の普及、健康意識の向上が影響していると考えられます。（図3）その一方、精密検査受診者数は、平成21年度から50%程度となっています。（図4）高齢になるほどがんの罹患率も上がることから、早期発見のために精密検査受診を促し、治療をスムーズにできるように対応していきます。今後は、健診受診者の肥満度や喫煙率などの生活習慣病とがんの関連性を調査し、地域住民に寄り添った保健指導を実施したいと考えております。

図 1-1 癌発見部位(男性)

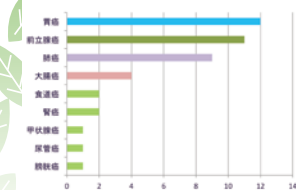


表 2-1

男性	胃癌	前立腺癌	肺癌	大腸癌	食道癌	腎癌	甲状腺癌	肝臓癌	膵臓癌	合計
40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～49歳	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
50～59歳	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
60～69歳	8	5	4	1	1	2	1	1	0	23
70～79歳	2	6	2	2	1	1	0	0	0	14

表 2-2

女性	子宮癌	肺癌	胃癌	大腸癌	肝臓癌	腎癌	合計
40歳未満	4	0	0	0	0	0	4
40～49歳	1	1	0	0	2	0	4
50～59歳	0	4	2	0	0	0	6
60～69歳	1	1	2	1	1	1	8
70～79歳	0	0	1	4	0	1	6

図 2-1 主要臓器 年齢別の比較(男性)

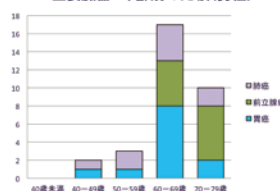


図 3

人間ドック受診者数

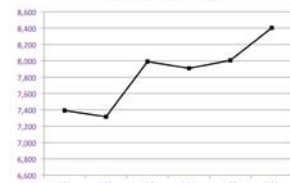


図 2-2 主要臓器 年齢別の比較(女性)

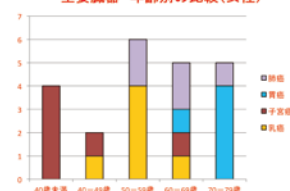


図 4

精密検査受診者率と癌発見者数



男女を比較すると、男性は60歳以上になると女性の約2.5倍のがんが発見されていることがわかりました。また共通点として、大腸癌の発見率が低く、全国平均は男性で全体の20.8%（第2位）、女性は全体の15.8%（第2位）に対し、当健診センターでは、男性が9.3%（第4位）、女性が10.7%（第5位）となっています。

緩和ケア内科の新設にあたって

鈴鹿中央総合病院に緩和ケア内科が新設となり、4月1日付で赴任しました寺邊政宏と申します。

私は30年間、外科医として主に消化器がんの診療に携わってきました。日本の外科医の誰もがそうであるように、がんの診断から手術、化学療法などの治療、そして緩和ケアまでを行ってきましたが、数年前から緩和医療に注力してきました。そして、この度、緩和医療に専心する決意をし、鈴鹿中央総合病院に迎えていただきました。外科医として緩和ケアに携わってはおりましたが、専門的に関わるようになってからの日は浅いため、まだまだ研鑽が必要なのですが、地域のがん医療に貢献する所存ですのでよろしく願っています。

また、緩和ケアチームも4月からがん看護専門看護師の佐野を中心にして、新たに臨床心理士を加えた新体制で稼働しております。



寺邊緩和ケア内科部長・佐野看護師

にご家族から「緩和ケアに来たら苦しまずにすぐにあの世に送ってくれる」とか「緩和ケアで入院したら二度と帰れない」などという言葉を聞きます。緩和ケアは安楽死をさせるところでもなければ、二度と出られない牢屋でもありません。

世界保健機構による緩和ケアの定義がありますが、一言で言う「苦痛と感じる症状を取り除き、生活の質を上げる」ということです。死を早めも遅らせません。生活の質は病院より住み慣れた自宅の方がよいことが多いので症状が取れたらなるべく早く退院です。二度と帰れないことはありません。

鈴鹿中央総合病院 緩和ケア内科部長 寺邊 政宏

緩和ケアでは以下のようなことをします。

- がんと宣告されたときの落ち込んだ気分を緩和し、治療への意欲を持っていたくこと
- 治療中の副作用によるつらい症状を緩和し、必要な治療が副作用のため中断されないようにすること
- がんの進展による痛み、吐き気、呼吸困難などを緩和し普段の生活をしやすいすること
- 経済的なことの相談
- 在宅療養の支援

これらすべてが緩和ケアです。しかし、これがすべてではありません。まずは相談して下さい。当院では医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、理学療法士、管理栄養士などがチームで緩和ケアに当たっており、相談いただければ何らかの



お手伝いができると思います。「緩和ケアを受けたい」と伝えることが第一歩です。

また、近い将来、緩和ケア病棟の開設も予定しております。三重県において緩和ケア病棟を有する病院は中南勢に多く、また、急性期病院の緩和ケア病棟としては松阪以北では県内唯一となります。

今後とも緩和ケア内科・緩和ケアチームをよろしく願い申し上げます。

薬剤部紹介

平成27年4月の新病院開院より、一年が経ちました。当薬剤部においては、新築に伴う病院全体の電子カルテ化に対応すべく、新規に調剤業務支援システムを導入し、業務の効率化を図ってきました。

スタッフルーム、DI室を設置し、限られたスペースを有効に利用し監査等にも対応できるよう工夫してきました。



した。窓口はオープンカウンターとなり、薬に関する患者さんからの相談、あるいは患者さんへの説明などもより行いやすくなりました。

また開院時に薬剤師が1

名増員となったことで、調剤のスピードアップ、病棟業務の充実を目指してきました。患者さんから「もう薬できているの？早いね」とお褒めの言葉をいただくことが多くなりましたが、煩雑な一包化処方や軟膏調整などはどうしても時間がかかり、お待たせしてしまうことがあります。旧病院時より当院はお薬の待ち時間が比較的短いため、新病院開院後も待ち時間の短縮を含めた同様なサービスが提供できるかどうか不安でしたが、開院当初の細か



い不備を改善しつつ、なんとか現在に至っております。

旧病院と比較し、特に新しい業務を取り入れてきたわけではありませんが、大台町・大紀町を中心とした紀勢地域は高齢化・過疎化が著しく、患者さんも高齢の方がほとんどであるため、今後も地域のみなさまのニーズに対応した薬剤業務を遂行していく必要があると考えております。28年4月の診療報酬改定では残薬や重複投与、不適切な多剤投与などの削減に対す



る取り組みへの評価が示されました。そのような中において患者さんにより安全で的確な薬剤が提供されるよう、病院の薬剤師にはその技能がより重要視されてきます。薬のプロとしての自覚を持ち、研さんに励みつつより適正な医療の提供に努めてまいります。

また、本年4月よりさらに薬剤師が1名増員となりました。この増員に見合う成果をあげられるよう業務に励んでまいりたいと思います。

大台厚生病院 薬剤部長 稲口廣司

RST(Respiration Support Team 呼吸器ケアサポートチーム)活動報告

松阪中央総合病院 C E 部 田中 朗

当院の呼吸器ケアサポートチームは、平成19年7月に呼吸器内科医師をチームアドバイザーとし、看護師・理学療法士・作業療法士・臨床工学技士・薬剤師・管理栄養士からなる多職種チームとして発足いたしました。

チーム医療が取りざたされる今日、院内では様々なチームが発足し細分化し活動を開始しております。現在は、細分化したチーム(NST、SST、ICT等)の力を借りながら、看護師・理学療法士・臨床工学技士が、月に1度の定期ミーティングと年数回の勉強会を開催し、呼吸管理の啓発、依頼症例への介入をすすめる病棟ラウンドをおこなっております。また看護部の力添えもあり、各病棟にリンクスタッフの配置をしていただいております。

病棟看護師に対しては、非常勤の呼吸器内科医や主治医の指示のもとに、人工呼吸器装着中の患者に対する細かい呼吸ケアの相談と提案(体位管理、吸痰の方法・呼吸状態に応じた人工呼吸器の設定・気管チューブの選択)を行

RSTへの依頼件数の推移(2007年8月~2015年12月)

依頼科/年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
胃腸科	2		1		1	1	1		
胸部外科		8	2	10	5	1	1	2	2
外科		2	1	1	1			2	1
循環器科	2	2	4						1
小児科						1			
神経内科		1				2	1		
内科		3		1				1	
脳外科		1	2	1		1	3		
婦人科		1							
合計	4	18	10	13	7	6	6	5	4

なっております。呼吸ケアは毎日の細かい介入が大事であると考え、病棟看護師と担当理学療法士が臨床で行いやすい方法を提案しています。その結果、早期の人工呼吸器離脱と、その後のスムーズな呼吸管理に貢献しています。しかしながら、常勤の呼吸器内科医師が不在であるため、チーム活動に制限があるのが現在抱える問題点です。今後より広げて深い知識と技術を兼ね備えたスタッフが1人でも増えるよう、日々精進し活動していきたいと思っております。

訪問型職場適応援助者研修課程を修了しました

鈴鹿厚生病院 地域支援室 岡野 元保

平成28年2月5日から6日間の日程でジョブコーチ養成研修を受講しました。

ジョブコーチとは訪問型職場適応援助者(旧1号援助者、障がい者を送る側)と企業在籍型職場適応援助者(旧2号援助者、障がい者を受ける側)があります。ジョブコーチの役割として『障がい者が職場で持てる力を発揮し安定して働けるよう一定期間職場に入り支援を行う専門職であり、障がい者と職場環境の双方に対して支援および調整を行う』と定義されており、障がい者の就労支援を行う者です。

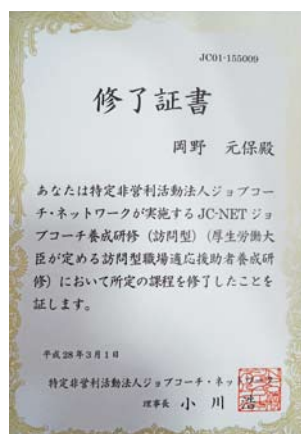
5日間は大妻女子大学多摩キャンパスで基礎講座、実践講座を受講し、最終日は前日の夜に神奈川県平塚市に移動し、古河電工の特例子会社古河ニューリーフで職場実習を行いました。

研修者で企業在籍型を受講されている方が多く、大企業(例として花王、スリーボンド、JAL)で働く障がい者雇用を担当している同年代の課長クラスの方達ばかりでした。普段接すること

がない方達ばかりで、障がい者雇用に対する取り組み方や考え方、仕事に対する考え方など刺激になる話ばかりで、とても勉強になりました。3日目の研修終了後に懇親会があり、その後企業に在籍型の方達と東京の夜の街に繰り出したことはとても楽しい経験でした。

近年、ジョブコーチの仕事は多様化されていきますが、まだまだ認知度、知名度が低いのが現状です。しかし、今年度から三重県ジョブコーチ推進委員会が発足し、各市町村から代表者が集まり10月に三重県で初開催されるジョブコーチセミナーに向けて会議を行っています。

「障がい者雇用は量から質へ」を motto に今後も頑張っていきたいと思っております。



ひろげよう、全国厚生連の輪！

おすすめ郷土料理

全国厚生連栄養士協議会 全国統一献立の日

南島メディカルセンター 管理栄養士 若山 紘子

(※4月1日より松阪中央総合病院に勤務しています。)

平成27年9月より全国各地の厚生連の病院や施設で同じ献立を、同じ日に提供しようと、全国統一献立の日という取り組みが行われています。私たち三重県厚生連の各施設でも、この取り組みに参加しています。第1回目は鹿児島県の「鶏飯」、第2回目は香川県の「しっぽくうどん」、第3回目は福島県「小汁」、3月に第4回目の秋田県「豆腐カステラ」を提供しました。

当施設は第2回目から参加しま

した。患者さんには料理の由来や、作り方の説明を書いた用紙を配布し、またこの取り組みについてのアンケートにご協力いただいています。アンケートでは、「面白い取り組みですね」、「また違うところの料理が食べたいです」などの声をいただき、病院食のイベントのひとつとなっています。反響が良かった献立については、今後も定番献立に取り入れたいと思っています。食事制限のない常食の患者さんが対象となること

多いですが、調味料の分量の変更や材料を考慮し、治療食の患者さんにもできるだけ提供するようにしています。当施設では職員食も、栄養科より提供しているため職員にも食べていただく機会があります。職員からの反響も良く、今後もこの取り組みに参加していきたいと思っています。また、三重県の郷土料理も全国に提供できたら良いと思います。



鶏飯 (鈴鹿中央)



しっぽくうどん (大台厚生)



小汁 (松阪中央)

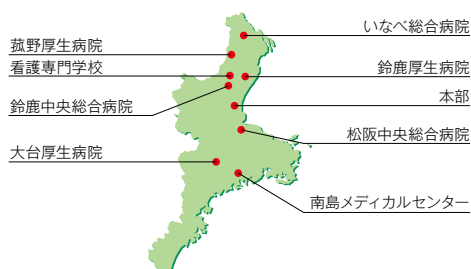


豆腐カステラ (南島メディカル)

JA三重厚生連

看護師 助産師募集

人に 地域に やさしい看護



厚生連だより #70

2016.5発行

発行／ 三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354

http://www.miekosei.or.jp/ Email:info@miekosei.or.jp